

国際中学校Q&A
1 教育課程・学習について
Q1 国際バカロレアはなぜ始まったのですか。
A1 国際バカロレアは当初、世界各国から人が集まる国際的な機関や外交官のお子さんの母国での大学進学のために、さまざまな国の大学入試制度に対応し、一つの国の制度や内容に偏らない世界共通の大学入学資格および成績証明書を与えるプログラムとして開発されました。プログラムの目的を「より良い、より平和な世界を築くことに貢献する」人材を育てることとしており、国際中学校の目指すところと完全に一致しています。
Q1-① 国際バカロレアの認定基準について知りたいです。
A1-① 国際バカロレア機構が発行している「プログラムの基準と実践要綱」に示されている基準をクリアする必要があります。項目には、学校の理念や組織体制、リソースと支援体制、カリキュラムなどがあり、現在本校では、アクションプランを作成して、国際バカロレア機構から指定されたコンサルタントの先生にコンサルテーションを受けているところです。 https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/about-the-ib/pdfs/programme-standards-and-practices-ja.pdf
Q1-② 中高の6年間で留学をすることになった場合、国際バカロレアプログラムを採用していない海外校での単位取得を認めてもらえるのでしょうか。
A1-② 海外校での学習実績から単位習得を認めることも可能です。ただし、さまざまなケースがありますので、入学後に個別に対応させていただくことになります。
Q2 他の中学校と比べると国語や数学の学習時間は少ないですか。
A2 日本の学習指導要領に基づいて時間割を編成していますので、国語や数学の時間も他の中学校と同様です。
Q2-① グローバル探究や総括的課題を行う分、他の公立中学校にくらべて授業数は多いのでしょうか。
A2-① 国際バカロレアプログラムに関する教育の内容充実のため、通常50分×6限授業のところ、本校では、45分×7限授業(水曜日以外)とすることで、少し多めの授業数を確保しています。グローバル探究は「総合的な学習の時間」に実施しています。総括的課題はそれぞれの教科の時間内で行っています。
Q2-② 教科書等いわゆる一般的な勉強は個人的に言うことでしょうか。グループワークに力を入れていると、そのような時間がないように思いますが、どう取り組んでおられるのか知りたいです。
A2-② どの授業も教科書を大切に学習しています。学びの進め方として、先生が一方向的に知識を伝達するスタイルではなく、主体的に学習に関わることができるようグループワークなどの機会を多く取り入れたスタイルで授業を進めています。従来の学習スタイルよりも、むしろ深い学びが得られていると生徒も感じています。
Q2-③ 理科や数学ではグループ活動が多いと聞きましたが、具体的な割合を教えてください。
A2-③ 数学と理科では、ほぼ毎時間グループ活動を行っています。理科では、生徒がペアワークやグループワークで互いに学び合い、教科の内容を理解していきます。

<p>Q3 小学校では探究の授業といってもiPadですぐ答えが出てしまいます。探究のやり方は具体的にどのような方法なのか気になりました。</p>
<p>A3 国際バカロレアの探究では、あるトピックについて検索すれば答えが出る単なる調べ学習ではなく、「概念」について、時間や場所、空間を超えて一般化されるアイデアを学ぶことが目的とされています。 本校での探究では、いくつかの得た情報を基に自分の考えをまとめたり、得た情報から今あるものを改善し、新しいものを創造したりする課題に取り組めます。また、中学生や高校生の時期からも、世界の課題と真剣に向き合い、より良い世界をつくる主体となれるように取り組んでいます。</p>
<p>Q3-① 知識については、ある程度の詰め込みは必要と考えますがいかがでしょうか。探究のためには最低限の知識が必要と考えます。</p>
<p>A3-① 「探究のためには、最低限の知識が必要」との考えから、本校では、知識の習得についても力を入れています。</p>
<p>Q3-② なぜグループのことを「ファミリー」と呼ぶのですか。</p>
<p>A3-② グループ活動をする際には、単なるグループではなく、「家族」のように各メンバーのことを大切に、互いを尊重し、安心できる仲間である、という意味で、「ファミリー」と呼んでいます。</p>
<p>Q3-③ プレゼンを親が見る機会はあるのでしょうか。</p>
<p>A3-③ 年に数回授業参観の機会を設けています。また、さまざまな機会に、お子様の様子を動画などでも見ていただいています。</p>
<p>Q4 高校生の人たちと授業で交流がありますか。</p>
<p>A4 異学年交流は、生徒のリーダーシップや柔軟な思考の育成、多様性の受容など、様々な効果が期待できます。本校でも、積極的に取り入れていきたい活動の一つです。これまでも「グローバル探究基礎」で高校生がワークショップを行ったり、理科の授業で、顕微鏡の使い方について、高校生から学んだなど、学習においてもさまざまな交流をしています。</p>
<p>Q5 高校では、5カ国語ではなく、もっと英語に時間を割く方が実社会で役に立つのではないのでしょうか。</p>
<p>A5 「世界の言語」は、国際バカロレアプログラムの多言語主義、多様な文化の理解の精神に基づいて、世界には多様な言語や多様な文化、考え方があるということを学ぶために開設しています。多言語を学ぶ機会をもつことで、よりいっそう、第二言語(英語)の学習に深まりをもたせることができます。</p>
<p>Q6 評価について、テストと課題の比率、調査書はどのようなか知りたいです。</p>
<p>A6 各教科で単元ごとに行う総括的課題(レポートや発表、成果物)などを元にして、各教科の評価がなされています。ただし、総括的課題に向かうまでには、生徒の学習状況を測る形成的評価を実施し、必要に応じて追試や補習なども行い、フォローをしています。年度末には、国際バカロレアプログラムに基づいた各教科の評価を及び文部科学省の学習指導要領に基づいた評価が生徒・保護者に示されます。生徒指導要録や調査書には、この学習指導要領に基づいた評価が記載されることとなります。</p>
<p>Q6-① 定期テストがない分、他の公立中学校との学力の差が不安なところがあります。紙のテストはどの程度のものでしょうか。</p>
<p>A6-① 単元ごとに習得が必要な知識については、到達度をペーパーテストで測り、必要な場合は、補習や再テストなどを行っています。</p>

Q6-② 子どもたちが知識を十分習得しているという根拠はあるのでしょうか。
A6-② 生徒の知識の習得については、単元内で実施するペーパーテストなどで、常に確認をしています。
Q7 学校の中だけでなく、地域との関わりなどでの学びがあれば良いのではないのでしょうか。
A7 ご指摘のとおりです。学校外での人々とのつながりで、生徒は多くのことを学び、成長します。国際高校では生徒の探究活動を進めるために、地域の方との様々な繋がりを構築してきました。中学校でもそのような繋がりを活かして、本校で学んだ地球規模の視点で考え、地域の問題解決を行える生徒の育成に取り組んでいきます。
Q8 学校説明会で子どもたちの学びの様子はよくわかりましたが、先生方がどのようなフォローをしておられるのか知りたいです。
A8 国際バカロレアプログラムにおける教員の指導には以下のような役割があります。探究や概念理解を大切にす指導。チームワークを重視する指導。すべての生徒が学びの機会を得ることができる指導。効果的なフィードバックのための指導などです。すべての教員がIBプログラムの研修を受け、新たなサポートの仕方を学んでいます。
Q9 「生徒の自主性や主体的な学び」と「先生からのサポート」をどのようにバランスをとられるのでしょうか。放置になりませんか。
A9 生徒の自主性や主体性を育むため、教員はどのようなサポートを行えば良いか、常に研鑽を積んでいます。教員は生徒の様子を常に観察しながら、必要なサポートを適切なタイミングで行っています。また、教員が必要な知識を伝えることもあり、全て生徒だけに学習を委ねているわけではありません。
Q10 すばらしい1期生を見て、ミスマッチや劣等感を感じた生徒さんはいないのか、気になりました。
A10 授業をはじめとしたあらゆる教育活動の中で、それぞれが自己有用感を高めることができる取り組みを行っています。また、唯一解に辿り着くための個々の競争としての学びではなく、共同体としての正解を共に構築していく学びが必要だと考えています。そうした意味で、優劣で考えるのではなく、それぞれの多様な価値観を大切にするという雰囲気があるからこそ、安心して学べるのだと考えています。道徳の時間なども活用しながら、一人一人の価値観を大切にす雰囲気をまず大切にしています。そして、国際バカロレアの評価も、「他人と比べてどうか」ではなく「自らの学びの段階」を適切にフィードバックするものとなっています。したがって1期生は、他人と比べることよりも、自他の価値観を大切にしながら、自らの学びをどのように高めるかを考えています。
Q11 デバイスがiPadに限らず、アンドロイドや色々なデバイスに触れる機会を検討していただけますか。
A11 現在の中学校1年生はChromebookを貸与しています。また、学校には、windowsを搭載したノート型パソコンやiPadがあり、生徒が授業で触れる機会を増やしていく予定です。

2 受検について	
Q1	定員をもう少し増やすことを検討してください。
A1	ご提言ありがとうございます。定員については、奈良県教育委員会が定めています。校舎の教室数の関係上、2クラスとさせていただいています。
Q2	小学校の先生の推薦書は必要ですか。
A2	推薦書は必要ありません。
Q3	小学校からの調査書は必要ですか。
A3	調査書は必要です。内容や形式などについては、県教育委員会のWebページから実施要項をダウンロードしてご覧ください。 https://www.pref.nara.jp/63655.htm
Q4	偏差値はどれくらいですか。
A4	本校としては、点数やいわゆる偏差値で学校の姿を決めるという立場にないため、お答えすることができません。国際中学校で学びたいという明確な目的意識を持った生徒に入学していただきたいと思っています。
Q5	適性検査3の英語は小学校で習う範囲でやりとりをするのですか。面接のレベルや評価基準が知りたいです。
A5	適性検査3では、学ぶ意欲や、思考力、判断力、表現力等をみます。内容は小学校の学習指導要領の範囲内となります。積極的に発言できるよう日々の授業に取り組んでください。
Q6	入学するために、英検何級が必要ですか。
A6	入学前の英検取得については、特に求めていません。
Q7	試験問題が難しいですが、解けるようになりますか。合格するために、今何をすればいいですか。
A7	適性検査1、2では、文章や資料を読む力、自分の考えをまとめて言語で表現する力、筋道を立てて考える力、数理的に処理する力、観察や実験等から課題を解決していく力等をみます。いろいろなことを関連付けて考えたり、考えたことを説明したり文章にまとめたりすることができるよう、日々の授業に取り組んでください。
Q8	合格するために、通塾が必要ですか。
A8	特に必要ありません。
Q9	塾ありきの受検ではなく、のびのびとした子どもたちの育成を目指すなら、もっと試験の在り方も工夫した方がいいのではと感じています。
A9	求める生徒像と検査の客観性を担保した上で、検査のあり方を工夫して参りたいと考えています。

<h3>3 進路について</h3>
<p>Q1 中学校3年間の中で、よい評価が得られず、高校進学できないこともありますか。</p>
<p>A1 国際高校には試験なしで進学することができます。</p>
<p>Q2 高校入学時に他の県立高校を受検することもできますか。</p>
<p>A2 国際中学校では6年間を見通したカリキュラム編成を行うことから、国際高等学校に進学することを前提として生徒の募集を行います。ただし、県外への転居など、やむを得ない場合には他の高等学校等へ進学することは可能です。</p>
<p>Q3 東京大学や京都大学に入るからこそできることもあると思います。</p>
<p>A3 国際中学校・高等学校では、6年間の教育課程で「キャリアデザイン力」を身につけて、自らの進路を自ら選択してもらいたいと考えています。東京大学や京都大学もそれぞれの生徒の選択肢の1つとして含められると考えています。</p>
<p>Q4 大学受験のために学校外の勉強が必要になりますか。学校で取り組みやサポートはされているのでしょうか。大学入試に向けた対策について、さらに説明を聞きたいです。</p>
<p>A4 放課後や長期休暇には「実力養成講座」を開催しています。また、小論文や面接の対策も行っています。</p>
<p>Q5 大学進学を一般入試でチャレンジする場合の対策に心配を覚えます。</p>
<p>A5 一般入試で受験する際のサポートも実力養成講座や個別の対応など他の学校と同様行っています。</p>
<p>Q6 今の大学入試制度と国際バカロレアの教育スタイルがまだうまく合致していないのではないのでしょうか。</p>
<p>A6 大学入試制度も知識偏重から思考力等を重視する形に変わりつつあります。私たちは、本校での学びが今後の入試制度下で、力を発揮するものであると信じています。</p>
<p>Q7 探究的な学びを重視されていることはわかりましたが、6年後の大学受験を考えたときに基礎・応用の一般的学力が習得できるのか気になります。</p>
<p>A7 探究的な学びは、基礎的な学力の上に成立するものだと考えています。また、国際バカロレアプログラムの深い学びの中で、応用力は自然と身に付きます。</p>
<p>Q8 理系への進学を希望しています。人文系以外の取組で工夫されていることはありますか。</p>
<p>A8 本校では、文系・理系を問わず、お子様の興味・関心を高めるためのさまざまな教育活動を行うように努めています。高校2年生からは文系・理系両方の教育課程を提供しています。</p>
<p>Q9 獣医になりたいと思っています。国際中学校では動物に関わることはできますか。</p>
<p>A9 今から将来の夢に向けて取り組んでいることが素晴らしいですね。「グローバル探究」の中で、動物をテーマにして探究活動を行っている高校生もいますので、一緒に取り組むこともできます。</p>

4 学校生活について
Q1 中学校と高等学校の交流はありますか。
A1 文化祭や体育大会、球技大会などの行事は合同で行っています。また、生徒会やクラブ活動も一緒に行っています。
Q2 先輩たちは優しいですか。
A2 中学校の1期生は高校生の先輩がとても優しくしてくれると喜んでます。
Q3 ご本人の希望で入学された方はどれくらいいらっしゃいますか。入学前と後との学校への感想を教えてください。
A3 1期生合格者へのアンケートでは、保護者のすすめが28%、家族以外(塾等)のすすめが6%でした。それ以外は本人の希望です。入学前は授業についていけるか等不安もたくさんあったようですが、入学後は気の合う友達も多くでき、学校での学びも楽しいと言っている生徒がほとんどです。
Q4 留学先はどこですか。
A4 学校で定めている留学先はありません。AFSやYFUなどの交換留学を利用する生徒が多くいます。派遣先は、アメリカ、カナダ、フランス、ドイツなどさまざまです。
Q5 修学旅行はどこですか。
A5 国際高校では、修学旅行ではなく、授業の一環としてアジアへのスタディツアーを実施しています。(高校1~3期生は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため国内に変更。)中学校も、探究活動の一環として、カリキュラムに組み込まれた国内のスタディツアーを実施する予定です。行き先は、学校の教育内容にふさわしい場所を今後選定します。
Q6 部活動の活動時間はどのくらいですか。月に何回ほどですか。
A6 部活動は県のガイドラインに基づいて活動時間が定められています。中学生は午後5時までです。活動日はクラブによって異なりますが、平日4回、休日1回を上限としています。国際バカロレアプログラムでは、授業時間外の課題やサービスアクション(行動のための奉仕活動)などもあるため、活動に制限がかかることがあります。
Q7 部活動には必ず入らないといけないですか。参加率はどれくらいですか。
A7 部活動の入部は必須ではありません。1期生の参加率は87%程度です。
Q8 部活動を増やすことは可能ですか。
A8 現在、国際高校も含め部活動数を調整しているところですので、新たな部の創部は厳しい状況です。
Q9 世界のダンス部はなぜ文化部なのですか。
A9 世界のダンス部では、さまざまな国のダンスに取り組んでいます。ダンスを文化的な側面で捉えるため、文化部に属しています。

Q10 吹奏楽部や茶道部、華道部、写真部等は他国との関わりはありますか。
A10 留学生と一緒に活動することもあります。
Q11 サッカー部の活動曜日と時間、人数、試合の組み方や指導者についても教えてください。
A11 男女とも、基本的に水曜日、日曜日はオフです。平日に練習、休日に練習試合等を行っています。活動時間は2時間以内です。人数は少ないですが、経験者・未経験者どちらも楽しく活動できます。今年度については、男女合わせて4名の顧問で指導にあたっています。
Q12 自転車通学は可能ですか。ヘルメット置き場はありますか。
A12 自転車通学は可能です。ヘルメットは各自保管していますが、教室内のロッカーで保管することも可能です。
Q13 電車通学の場合、何時に学校についていたらいですか。
A13 学校の始業は8時35分です。
Q14 平均の下校時刻は何時くらいですか。
A14 月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の終業時間は15時35分です。水曜日のみ終業時間は14時40分です。
Q15 スマホはもっていいですか。
A15 スマートフォンについては、電源を切った状態で所持することは認めていますが、校内での使用は禁止しています。
Q16 校則はどのようなものがありますか。Webページで公開してください。
A16 国際中学校・高等学校の校則(生徒心得、服装規定)については、以下のとおりです（ 本校HP ）。本校では、開校以来、生徒とともに校則を含めた学校の文化をつくりあげてきました。皆さんにも新たな学校づくりに参画してもらいたいと思います。 https://www.e-net.nara.jp/hs/kokusai/index.cfm/9,187,c.html/187/20220921-144034.pdf
Q17 グローバルな学校なのに制服が自由ではないのはなぜですか。
A17 国際社会で通用する清潔で気品あるデザインとして、冬服には紺色のブレザーを、夏服にはポロシャツを採用しました。すべての生徒がスラックスかスカート、ネクタイかリボンを選択できます。また、本校では制服の移行時期は特に設けていません。指定された制服の中で、御自身の体調に合わせた選択が可能です。
Q18 給食が牛乳だけなのはなぜですか。
A18 栄養の補給を図るため、弁当を持参のうえで、一日一本の牛乳を給食として提供しています。
Q19 給食を実施してもらえませんか。食堂をつくってもらえませんか。
A19 現時点で、給食や食堂の計画はありません。

Q20 アレルギーをもっていますので、購買部の食べ物のアレルギーが気になります。
A20 現在、購買にアレルギーの表示はありません。生徒の皆さんの健康を考えてアレルギー表示をするべきかと思いますが、外部業者との折衝によりますので今後の検討課題となっております。
Q21 購買部は何時から何時まで開いていますか。
A21 9:35から13:00まで開いています。ただし、授業時間中の使用は出来ませんので、休み時間での使用となります。
Q22 小学校で不登校だったのですが、なじめますか。
A22 生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて校内の支援体制を整備するとともに、県教育委員会と連携しながら、取り組んで行きたいと考えています。
Q23 国際中学校に入った理由は何ですか？
A23 1期生合格者へのアンケートでは、国際中高の教育内容で魅力的なこととして以下のようなことが挙げられていました。 ① 英語(56%) ②国際交流 (52%) ③国際バカロレア(46%) ④世界の言語(48%) ⑤在学中の留学(36%) ⑥探究(33%)
Q24 【先輩に】学校は楽しいですか？どのようなところが楽しいですか。
A24 話の合う友人がたくさんいて楽しい、学校の授業や課題がおもしろい、いろんなことに謎や疑問をもって考えることを面白いと思える雰囲気がある、グループワークや議論することが楽しい、高校生の先輩が優しい、などといった意見が出されました。
Q25 普段はどれくらいのお金を持っていけばいいですか。
A25 学校生活の中では、特に必要ありません。購買部で昼食を購入する人は、必要最低限のお金を持参してください。
Q26 年間の諸費用はどれくらいですか。公立中学校とどれくらい違いますか。
A26 必要経費については、10月の授業体験でお示します。
Q27 男子と女子は仲良くされていますか。
A27 男女分け隔てなく仲良くしています。
Q28 男女比はどのようになっていますか。
A28 入学検査の際に、男女比は示していません。1期生は男子26名、女子45名です。

5 その他
Q1 学校の沿革について教えてください。
A1 「魅力と活力あるこれからの高校づくり」を進めるために質向上と再編成を図るために2018年10月に策定された県立高等学校適正化実施計画に基づいて、2020年4月に国際高等学校が開校しました。また2023年4月には、国際中学校も開校しました。
Q2 出身小学校はどこが多いですか。
A2 1期生は生駒市出身の生徒が最も多く26名で、あとは奈良市14名、そのほか大和郡山市、桜井市、橿原市、香芝市、三郷町、平群町、田原本町など県内各地域から通学しています。
Q3 公立のため、教員の異動もあるとおもいますが、教員の質はどのように確保されていますか。特色あるプログラムを指導できる教員が継続して配置されるのでしょうか。
A3 プログラムを確実に実施するためには、教員の力は大きな影響をもたらすとの共通認識をもち、県教育委員会と協議を継続しています。また、毎月、コーディネーターによる職員研修を実施し、本校すべての教員が国際バカロレアプログラムを適切に実践できるよう努めています。
Q4 全教員がバカロレアの実務研修を受けているのですか。
A4 今年7月に、中学校に関わる教員向けの校内ワークショップを国際バカロレア機構から講師を招聘して開催しました。また、各教科のワークショップにもそれぞれの教員が参加しています。
Q5 県立学校でのチャレンジに限界はないのでしょうか。校舎が古いのが気になります。施設・設備は充実されていくのでしょうか。
A5 県教育委員会と協議しながら、計画的に施設・設備の充実に取り組んでいます。
Q6 全教室にクーラーはありますか
A6 普通教室にはクーラーがあります。特別教室のクーラーについては、県教育委員会が計画的に設置を進めています。
Q7 合格発表後のスケジュールを早く知りたいです。
A7 現在、検討中です。10月の授業体験の際にはお伝えできるようにします。
Q8 今回の説明会の内容についてYouTubeでアップしてください。
A8 e-オープンスクールに登録いただきましたら、当日の動画を視聴することができます。
Q9 会場にいた先生や生徒の方がマスクなしで頻りに咳をしておられるのが気になりました。
A9 ご指摘ありがとうございます。配慮ができずに失礼いたしました。感染拡大防止に、引き続き取り組んでまいります。
Q10 10月15日の体験授業は6年生だけですか。
A10 5年生、6年生が対象となっています。

Q11 学校見学会の回数を増やしてほしいです。

A11 ご提案ありがとうございます。随時学校見学を実施していますので、教頭宛にご連絡ください。

Q12 在校生とその親の対談をステージで実施すればもっと良さが伝わると思いました。

A12 ご提案ありがとうございます。早速検討させていただきます。先日、在校生保護者より「この学校に入学して、子どもが家で話す内容や語彙の質がぐっと深いものになって、成長したのを実感する」という嬉しいお話もいただきました。